

ネットワークボード

今回の総会で「居住支援事業」という新たな取り組みについて承認をいただきました。現在日本各地で、障がいのある人たちの住まい方の選択肢として、シェアハウスや居宅介護ヘルパーによる支援付ひとり暮らしの取り組みが少しずつ増えており、その実践について、研究や情報交換が始まっています。また、ひとり暮らしを目指して、本人の生活力を上げるためのアプローチや、ライフプランを総合的に一緒に考えようという人たちも現れています。その中のひとつ「一般社団法人障害のある子のライフサポートプラン協会」では、自立生活研究の第一人者である東京家政大学の田中恵美子教授をお招きして、講演会を企画しています。興味のある方はぜひ参加してみてください。(編集部)

“ひとり暮らし”という住まい方の選択肢

～「これしかない」から「これもある」

ライフプランを実現する

開催日時：令和5年7月23日(日)14:00-15:45

開催方法：Zoom ミーティング

視聴料：2,000円

講師：田中恵美子さん

(東京家政大学 人文学部教育福祉学科 教授)

田中さんは、障がいがある人のひとり暮らしの事例を研究しています。本講座では、どんな暮らしをしているのかについて事例をご紹介します。ご紹介いただきながら、制度や福祉サービスについてもディスカッションを通じて考えていきます。お申込みはこちら↓

<https://peatix.com/event/3631074/view>

「障がいのある子のライフサポートプラン協会」 🔍 検索



編集後記



6月はつながりのある団体からお声かけをいただき、対面やオンラインでお話をする機会が何回かありました。ぱれっとの取り組みや想いを、限られた時間内で効果的に伝えるという場は大変大きな学びとなります。深刻な社会課題に直接向き合うNPOにとって、熱く語ることは得意中の得意。でもそれをどう効果的に、どう絞って相手に伝えるかはとても難しいと思っています。相手によって、課題についての関心の深さも知識の幅もまちまち。例えば「そもそも障がいって？」について、「本人が持っているものではなく、本人と社会の間にあるもの」(医学モデルと社会モデル)というお話をさせてもらおうと、多くの方々から「初めて聞いた」という反応を得ます。福祉業界では良く触れる考え方なのですが、決してそれが普及していないことについて良い悪いの話で片付けるのではなく、話を聞いてもらう相手によって、丁寧にポイントを組み直し、しっかり伝えていかないと「あれもこれも」となって、結局何も伝わらずに終わるという悪循環に陥りやすくなります。

「話す」ことと「伝えること」は別物。時間内に収めることはもちろん、聞いて良かったと思ってもらえるためには、「どんな人に何を伝えるのか?」、資料の作成や、リハーサルも含めてしっかり準備をして臨む必要があります。(みなみやま)